

実践記録

学校/学年	中学校 / 1 年 /	
教科等：単元名	学級活動：「わが家のルール」	
キーワード	携帯電話 ルール	
情報モラル指導 モデルカリキュ ラム表における 目標	分類	☒ 情報社会の倫理 ☐ 法の理解と遵守 ☐ 安全への知恵 ☐ 情報セキュリティ ☐ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	a4：情報社会への参画において、責任ある態度で臨み、義務を果たす。
	中目標項目番号 中目標項目内容	a4-1：情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する。
授業会場	☐ パソコン教室 ☒ 普通教室 ☐ 特別教室〔 〕 ☐ その他〔 〕	
学習の目標	携帯電話の使用のルールづくりについて、様々な立場から考える。	
使用教材	教材名	家庭学校みんなで考えよう、ケータイ
	製作者	株式会社 NHK エデュケーショナル
	入手先(URL 等)	http://ace-npo.org/info/sbm2/

○ 展開案

	学習活動	指導 評価
導 入	1．ビデオを見る。 2．ビデオの流れをおさらいする。	・ビデオの流れをおさらいし、両親の言い分と子どもの言い分をよく整理する。
展 開	3．使う子どもの立場から携帯使用のルールがあることのメリット・デメリットを考える。 4．自分がもし携帯電話を持ったら、家庭でどんなルールがあるとよいか考える。 5．ルール発表	・デメリットは多くだと予想される。メリットはなかなか書きにくいと思われる。ビデオ中の兄の「ルールがあることでいいこともあるんだなあ」というつぶやきを思い出させる。 ・ビデオの中の家族の携帯電話のルールを参考にしながら、ルールづくりを行う。 子どもの立場と親の立場両面を考えながら、バランスをとってルールづくりができたか。
お わ り	6．感想記入・発表	

○ 授業の成果

- ・中学1年生ではおよそ3割の生徒が携帯電話を所持している。中学1年生では、携帯電話はすでに身近な存在であり、楽しんでルールづくりに取り組んでいた。思ったよりも自分本位にならず、親の立場も考えながらルールづくりを行っていた。半数ほどの生徒が中学校3年間のうちに携帯電話を購入する。携帯電話を所持する時期が年々早まる中で、携帯電話のルールづくりについて、早い段階から考えさせておくことは重要であると感じた。

○ 指導のポイント・留意点

- ・ルールづくりについては、子どもの意見本位にならないように考えさせたい。ビデオの中でも、携帯使用のルールを作る上での親の意見、子どもの意見が分かりやすく示されている。そちらもよく振り返らせながら、親の立場も考えながらルール作りをさせたい。